

衆議院議員
【千葉県第5区(市川・浦安)】

岡野純子

おかのじゅんこ
さんの活動を紹介します

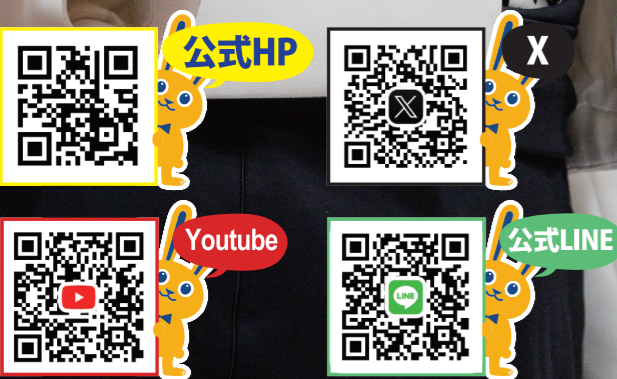
予算委員会に登壇!



岡野純子
プロフィール

1978年6月10日、京都市生まれ(47歳)
同志社大学文学部英文学科卒業後、NHK松山放送局アナウンサーとして勤務
2011年4月より市議会議員として3期務める
2024年10月 第50回衆議院議員選挙にて初当選
2026年2月 第51回衆議院議員選挙にて2期目の当選
家族 夫、高3と小6の娘の4人家族
趣味 料理、ランニング、サックス、ゴスペル落語、民謡、水泳

岡野純子 SNS&HP



国民民主
KOKUMIN MINSHU PRESS

号外

2026年4月1日

発行人
連絡先: 岡野純子 国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2
衆議院第2議員会館217号室
Tel: 03-3508-7636 / Fax: 03-3508-3024
HP: <https://okanojunko.jp/>

イベント1
衆議院議員 **岡野純子** と行く
国会見学ツアー
主催: 国民民主党 千葉県第5区総支部

国会
お子様大歓迎!!
車椅子 ベビーカー バリアフリー!
岡野本人がご案内!*

※公務の都合上、議員が対応出来ない場合があります。あらかじめご了承をお願いします。

日程 4月20日(月)~ 時間 10時~
4月22日(水) 参加費 1,000円 (昼食代の実費)

集合 衆議院第1議員会館 1階入口前
東京メトロ有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」 / 東京メトロ千代田線・丸の内線「国会議事堂前駅」徒歩5分

お申し込みはQRコードから!*

申込期限 4/17(金) 10時まで

2期目の議席をお預かりし、国会での仕事にもさらに力が入っています。しかし、やはり政治の原点は地元です。みなさんに実際にお会いし、直接お話を伺うため、これらのイベントを毎月開催しています。政治を遠い世界にせず、もっと身近に感じていただきたいと思っていますので、どうぞお気軽にご参加ください。

衆議院議員 岡野純子

※応募者多数の場合は抽選になる場合がございます。

イベント2
先着70名
衆議院議員 岡野純子 国政報告会
おかじゅんミーティング
4月18日(土)
14:00~ 浦安市文化会館 第1会議室
17:00~ 南行徳公民館 第2会議室

お子様大歓迎

衆議院議員 岡野純子による活動のご報告や現在の国政の動き、そして今後の活動についてお話をします。
参加費は無料です!お気軽にご参加ください!

お申し込みはQRコードから!

主催: 国民民主党 千葉県第5区総支部

卵子凍結事業

1. 卵子凍結事業では「正しい知識(成功率・リスク)」を示すべき

私はかつて、浦安市議時代に順天堂病院と連携し卵子凍結支援に取り組んできました。卵子凍結は、若い時点の卵子を採取・凍結保存、将来の妊娠に備える医療技術です。医療上の必要性(がん治療前など)に加え、健康な女性が社会的事情(パートナー不在、キャリア形成等)で出産時期を先送りせざるを得ない場合も含め、適切な制度設計が重要です。

卵子凍結は将来の選択肢になり得る一方で、妊娠・出産を保証するものではありません。先行事例による妊娠率は3割程。過度な期待や誤解が本人の不利益につながり得ることから、事前にどこまで具体的に情報提供するのかを質しました。

こども家庭庁からは、妊娠成立の不確実性、排卵誘発・採卵に伴う身体的負担や副作用、高齢妊娠のリスク等について、本人に説明・情報提供の方針が示されました。私は資料を作って終わりではなく、説明の標準化と実施状況の検証まで行うことを求めました。

2. 本筋は「若い世代が産みたい時に産める社会」/プレコンの強化

卵子凍結の議論以前に、若い世代が希望しても出産に踏み切れない現実があります。背景には、経済的不安、長時間労働、住宅費負担など社会構造の課題が重なっています。政府からは、所得向上策、児童手当の拡充、柔軟な働き方、妊娠期からの伴走型支援等を進める旨の答弁がありました。

また「年齢と妊孕性の関係をもっと早く知りたかった」という声が多いことを踏まえ、プレコンセプションケアの強化と学校教育での妊孕性教育の現状を確認。こども家庭庁は普及拡大、文科省は高校教科書での記載・統計更新の仕組みを説明しました。私は、取り返しのつかない領域だからこそ、最新の医学的知見を教育と啓発に確実に反映することを要望しました。加えて、男性側の妊孕性低下も含め、女性だけに責任が偏らない社会づくりを求めました。



いじめ対策

1. 過去最高の認知件数への認識

いじめは決して「身近で、ありふれた看過していいもの」ではありません。文部科学省調査では、いじめの認知件数は約77万件と過去最多。更に重大事態は1404件と、この10年で約3倍に増加しているため私は強い危機感をもって質疑しました。

文科省は、認知件数の増加には「学校が積極的に把握する体制へ変わってきた」面があるとし、重大事態増加については憂慮すべき状況で、早期発見・初期対応・組織的対応が不十分なのが重大化につながっている可能性を示しました。私は、数字の背景を冷静に見ながらも、重大化を止める仕組みの強化が急務だと指摘しました。

2. 第三者性の確保:学校だけに初期調査を任せない仕組みへ

いじめ疑いの初期調査は学校が主体ですが、学校自体もまた当事者であり、被害者・保護者が学校を信頼できないケースもあります。私は、学校と独立した通報窓口調査対応を担う第三者機関の整備を提起しました。

こども家庭庁からは、自治体の首長部局が相談から解消まで関与する手法のモデル事業を実施していると答弁。私は、教育委員会から離す意義は評価しつつも、同一自治体内にとどまらない、より独立性の高い仕組みの検討が必要と訴えました。

3. 人的体制:SC・SSWを“オプション”でなく標準装備へ

教員の多忙化の中、いじめ対応が現場任せになりがちな現実があります。子どものケアの観点からも、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)は「週数回の非常勤」では十分とは言えません。私は、専門職を安定的に配置し、子どもがいつでも相談できる体制を“標準装備”にする必要性を訴えました。

文科省は、SCの全公立小中学校、SSWの全中学校への配置を順次進め、重点配置もってきたこと、令和7~8年度予算に約88億円を計上していることを説明し、充実に努めると答弁しました。

4. 警察連携/スクールポリス:常駐の是非より「守れる連携」を

いじめの中には犯罪に相当する事案もあります。交通事故や医療事故等と比べ、いじめは第三者がすぐ介入しにくい構造があり、私はこの点を問題提起しました。そのうえで、スクールポリスの導入可能性と導入のメリット・デメリットを質問しました。

文科省は、犯罪相当事案を含むいじめ対応で警察連携を徹底するよう通知していること、相談通報すべき事案を犯罪名と合わせて示していること、巡回等は安心感につながる面があることを答弁。一方、警察官の常駐は理解面や教員意識など課題もあるとし、常駐に限らず日常的な情報共有・相談・通報が円滑にできる体制を重視するとし、私は、子どもを守る観点から、各地の実情に合わせ「実効ある連携」を整えることを求めました。

5. ネットいじめへの対応に学校だけでは限界がある

ネットいじめは、「24時間続く」「拡散される」

「匿名性が高い」「学校や大人が把握しにくい」と

いった特徴があり、従来型いじめ以上に被害が

深刻化し得ます。文科省はネットいじめを約2.7

万件(全体の3.6%)と説明しましたが、私は実態

はより多い可能性があり、その答弁の数字こそ

把握の難しさを表す証左だと指摘しました。

また、文科省は法務局・警察等と連携できるよう

窓口を周知していると答弁。私は、画像等が拡

散した「その瞬間」に子どもが動けるよう、子ども

・保護者にも分かる緊急時の導線を明確化す

べきと提案しました。あわせて、文科省単独では

限界があるため、総務省、法務省、警察庁など関

係省庁連携を実効化する必要性も強調しました。



6. 加害児童への対応:責任の明確化と更生支援の両立

重大ないじめには暴行・脅迫等、犯罪に相当するものもあり、「やったことには責任が伴う」を明確にする視点が欠かせません。同時に、加害側にも背景がある場合があり、再発防止・更生につながる支援も必要です。私は、責任の明確化と更生教育プログラムの体系化の両立を求めました。

文科省は、SC等による支援、子ども家庭センター等との連携、法務少年支援センター等の活用、犯罪相当事案は警察相談通報、懲戒や出席停止も含む対応をガイドラインで明確化したと答弁しました。



今後も、制度を「現場で使える形」に改めます

卵子凍結は希望になり得る一方、正確な情報提供と、若い世代が希望する時期に出産できる社会改革が不可欠です。

いじめ対策は、学校だけに抱え込まず、第三者性・専門職配置・警察連携・ネット対応の導線を「実効」あるものにしていく必要があります。

引き続き、当事者の声を踏まえ制度改善に取り組みます。

皆様も、お気づきの点やご意見がございましたらいつでもご連絡くださいませ。